

## 男女共同参画の理解講座



講師：高橋 一枝（青森県男女共同参画センター事業部長）

秋田県出身。「日本女性会議2002あおもり」実行委員を始め、長年市民活動に参画する。2001年青森市男女共同参画プラザ勤務を経て、2006年よりアピオあおもり（青森県男女共同参画センター）勤務。2018年より現職。

### ▶ なぜ今、男女共同参画社会なの？

少子高齢化、人口減少、労働力不足、地域活力の低下などが問題となっている現在、社会の持続性を保つためにも、個人の人権を尊重するためにも、男女があらゆる場面に対等に参画することが不可欠になっています。



### ▶ なぜ今、女性が県外流出するの？

青森県で女性の県外流出が進む背景には、「働きたい企業の数や業種の選択肢が限られている」という構造的な課題があります。さらに、現代の価値観にそぐわなくなっている「男は仕事、女は家庭」といった固定的な役割分担意識も、女性が地域に将来を描きにくい要因の一つとなっています。これらの課題を見直し、性別にとらわれず誰もが自分らしい生き方を選べる社会を実現することが、これからの地域に求められています。そのような環境が整えば、青森県は女性にとって「選ばれる地域」へと変わっていくはずです。



### ▶ なぜ今、防災・減災に男女共同参画社会が必要な？

災害が及ぼす影響は男女で異なり、必要とする物資や健康への影響、安全面でのリスクなど、求められる支援も多岐にわたります。だからこそ、男女双方を含む多様な視点を取り入れることが重要です。多様な視点が加わるほど防災・減災の質は高まり、誰にとっても安心・安全な支援体制が整い、災害による被害を最小限に抑えることにつながります。



### ▶ なぜ今、女性の政治参画が必要な？

県内の女性議員が考える「女性の政治参画を妨げる要因」として、複数回答の上位3つは以下のとおりでした。

- ・議員活動と家庭生活の両立が難しい(45.7%)
- ・政治は男性が担うものという風潮が根強い(41.3%)
- ・家族や周囲からの支援・理解を得にくい(37%)

これらの背景には、「家事・育児は女性の役割である」「リーダーは男性が担うべきで、決定権も男性にある」といった固定的な性別役割分担意識が依然として強く残っていることがうかがえます。

こうした状況を変えるためには、**男性中心の政治から、男女がともに参画する政治へと転換することが不可欠**です。多様な視点が政治に反映されることで、誰にとっても暮らしやすい社会の実現につながります。

### 参加者の声

\* 「災害は平等に人を襲わない」という言葉に衝撃を受けました。様々な場面に多様な人がいることが必要だと改めて感じました。

\* 世の中にもっと知れ渡ってほしいお話しだと思い、私たちが発信していく課題でもあると思いました。